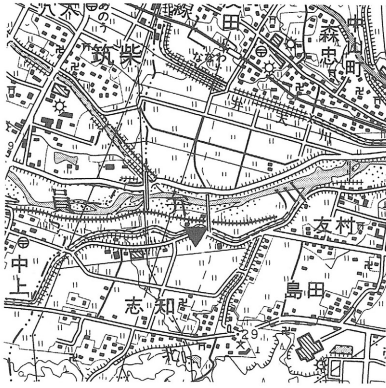


三重・志知南浦遺跡

- 1 所在地 三重県桑名市志知字十王堂ほか
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)七月～二〇〇三年二月
- 3 発掘機関 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 服部芳人
- 5 遺跡の種類 集落跡・寺院跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代晩期～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(桑名)

志知南浦遺跡は、員弁川右岸の自然堤防上に立地する。周辺に、十王堂などの寺院関連地名が残ることなどから、発掘調査区もしくは

はごく近隣に寺院があった可能性が高い。遺跡内からは、古代～中世にかけての墨書土器が計四八点出土している。このうち古代のものには「畝」「門」「弥市太」などがあり、中世には「僧」の墨書がある山茶椀、「宗真」「仏」の墨書があ

る天目茶椀など、仏教関連の墨書が見られる。

木簡は、溝SD六二から二点出土した。SD六二は、長さ二四・二m以上、幅四・八～五・八m、深さ〇・七一mを測る大溝で、一五世紀～一六世紀前葉の屋敷を区画する溝と思われる。同一遺構からは木簡の他、加工痕跡のあるウシの骨が出土している。

8 木簡の積文・内容

(1) 「風空火水地カ」

(260+163)×(30)×3 061

(2) 「六道能化地藏菩薩カ」

(631)×(41)×3 061

9 関係文献

三重県埋蔵文化財センター『志知南浦遺跡発掘調査報告』(二〇〇八年)

(竹田憲治)

